

11/23(土)  
24(日) 秋晴れのもとアウトドアを楽しむ  
あす旅キャンプフェス2024

県央地域9市町村の食や体験を楽しめる「あす旅キャンプフェス」が、酒沼自然公園キャンプ場にて開催されました。県央地域が誇る「食」や様々な「体験」などの魅力を、アウトドアイベントを通じて発信しようと企画され、県央地域の食材をその場でホイルに包み調理するホイル焼き体験や、県央地域の食材を自分自身で選びトッピングするオリジナルピザ作り体験は、多くの家族連れでにぎわいました。

また、「自然共生型アウトドアパーク フォレストアドベンチャー」のモバイルコースでは、子どもたちが体を使って思いきり遊ぶ姿が見られ、「貝殻を使ったアクセサリ作り」、「木工体験」、「ランタン作り」などの様々な体験エリアには、作業を楽しむ笑顔があふれました。

また、会場内では、県央地域9市町村の特産品を集めたマルシェも開催され、両日ともに売り切れになるほどの大盛況でした。



12/1(日) クリスマスクラフトで楽しいひと時を  
ひぬま de マルシェ 開催



「ひぬま de マルシェ」が酒沼自然公園キャンプ場にて開催され、家族連れなどたくさんの来場者でにぎわいました。

当日は気候にも恵まれ、さまざまなフードテントや、花・多肉植物の販売をはじめ、木工やレザーのクラフト雑貨店、アクセサリなどのハンドメイド雑貨店など、例年よりも多い約40店舗が揃いました。各店舗はクリスマスをテーマに飾り付けを行い、町のマスコットキャラクター「ひぬ丸くん」はサンタの服を着て登場するなど、クリスマスの装いの会場は笑顔であふれました。

また、マルシェからクリスマスまでの週末、同キャンプ場入り口からの園路にクリスマスイルミネーションが飾られ、来園者を楽しませました。

11/14(木) 50年の歩み振り返る  
令和6年度茨城町金婚式典



結婚50周年を祝う「令和6年度茨城町金婚式典」が、いこいの村酒沼で挙行されました。

小林宣夫町長は、出席したご夫婦が結婚された50年前の昭和50年を振り返りつつ、「記念すべき年を迎えられた皆様にお心からお祝い申し上げますとともに、長きにわたり町の発展にご尽力いただき、心より感謝いたします。」と挨拶しました。

代表で謝辞に立った海老澤忠さん、かつよさんご夫妻は、「多くの方々に支えられ、共に協力し合い、大過なく歩んでこられたことに、心より感謝をしております。健康に留意し、一日一日を大切にこれからの人生を有意義に過ごしてまいります。」と述べられました。

10/30(水) 未来ある青少年を守る功績たたえて  
青少年相談員 知事ほう賞を受賞



茨城県庁において、第54回茨城県青少年相談員研修大会が開催され、青少年相談員として永年活躍されている方々が表彰されました。町からは、茨城町青少年相談員の加藤かすみさん(写真左)、高野橋朋子さん(写真中央)、海老沢一美さん(写真右)の3名が知事ほう賞を受賞しました。

受賞した3名は、平成16年から現在までの20年間にわたり、町内の祭事パトロールや非行防止の環境づくりなど、青少年の健やかな成長のために尽力しています。

11/10(日) 先人たちの伝統を未来へ  
子ども伝統文化フェスティバル  
秋葉ばやしをステージ披露



町指定無形民俗文化財である「秋葉ばやし」が、県立歴史館にて開催された「子ども伝統文化フェスティバル」に出演しました。

秋葉ばやしは江戸時代以前から五穀豊穡・無病息災を祈願して演じられてきたと伝えられており、現在は秋葉囃子保存会がその伝統を守っています。当日は小学1年生から80代までのメンバーによって、獅子の舞・狐踊り・おかめ踊り・ひよっこ踊りが華やかなお囃子に合わせて演じられました。会長の石井敏幸さんは、「地域の祇園祭などで親しまれてきた秋葉ばやしの伝統を、末永く若い世代に伝えつないでいきたい。」と語りました。

10/28(月) 先輩指導士が後輩を育成  
シルバーリハビリ体操指導士  
3級養成講習会を開催しました



令和6年10月に、旧川根小学校体育館にて茨城町・大洗町主催の「シルバーリハビリ体操指導士3級養成講習会」が開催されました。

茨城町シルバーリハビリ体操指導士会1級指導士が講師を務め、全5回の講習会を経て、新たに茨城町受講生7名・大洗町受講生1名が3級指導士として茨城県知事により認定されました。

茨城町受講生7名は今後、町指導士会で活動し、シルバーリハビリ体操を通して住民の健康増進と介護予防を推進するとともに、地域の活性化のためにご協力いただきます。

11/10(日) 熱々のいも煮で楽しいひとときを  
第3回 駒場 de いも煮会



茨城町駒場庁舎グラウンドにおいて、「第3回駒場 de いも煮会」が開催されました。

商工会などの支援を受けた今回のいも煮会には多くの地域住民の方々が参加し、150リットルの大鍋で作った約300食分のいも煮が振舞われました。里いもや牛肉、たくさんの野菜が入ったいも煮を口にした参加者は、「とってもおいしい。体の内側からあたたまる。」と笑顔を見せました。

また「お楽しみ抽選会」では、様々な景品を手にした子どもたちの歓声で会場がにぎわいました。